



境内正面

「節分」解説

節分とは季節の変わり目のことで、立春・立夏・立秋・立冬の前日をいいます。旧暦では立春から新しい年が始まるので、立春の前日である春の節分は、その年の最後ということになり、新年を迎える意味で特に重視されました。ですから今日では、節分というと立春の節分を指すようになりました。

節分には日暮れ前に大豆を煎り、夜になってその豆を家屋の外へ投げ出します。この習慣は平安時代に宮廷で行われていた大晦日の夜の行事、疫病を追い払う「追儺（ついな）」と結びついているともいわれます。いずれにせよ、新年を迎えるに際し、悪鬼を払い、幸福を願うことが目的です。

祥徳寺について

寺院紹介

寺院 宗教法人 慈明山祥徳寺

宗派 中山身語正宗

本尊 中山不動尊（不動明王）

境内 約1000坪 駐車場あり

施設 本堂 子育て観音堂 四国霊場お百度場

瀧場 永代供養納骨墓地

年中行事 護摩祈願 厄除開運祈願会 花まつり仏生会

彼岸写経法要 お盆供養 など

住職 仰忍（鹿児島経済大学経営学部卒）

副住職 仰栄（立命館大学政策科学部卒）

お問い合わせ先

電話：099-244-1728

FAX：099-244-1857

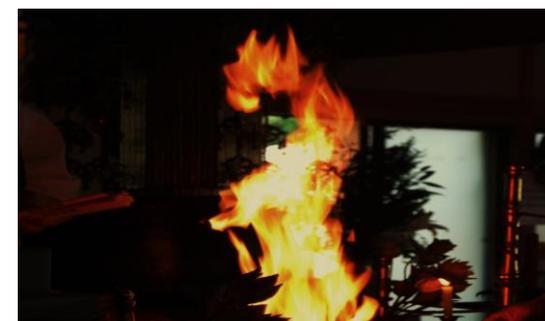
Web: <http://syoutokuji.s1.bindsite.jp/>



慈明山祥徳寺

〒892-0871

鹿児島市吉野町 8557



じみょうざん
慈明山
しょうとくじ
祥徳寺

厄除開運 節分祈願会



「厄年」ってなんでしょう？

積み積もった「業（ごう）」が・・・

日本には古来から人生の節目を「厄年」として忌み怖む習慣があります。私たちが普通に生活していても、知らないうちに身・口・意を使って犯した「業（ごう）」を身体に溜めているのです。

※業・・・仏様の教えにそわない行いや思いで「罪」と同意
身業・口業・意業を「三業（さんごう）」、逆に仏様の正しい行いを身密・口密・意密、「三密（さんみつ）」と呼びます。

厄年にはこの積み積もった業によって病気や事故などの災いが引き起こされるため、万事において慎まなければならない年齢といわれているのです。

数え年で、男性は 25 歳・42 歳・61 歳、女性は 19 歳・33 歳・37 歳が本厄とされ、この前後の年を前厄・後厄といいます。

また、多くの仏教寺院では厄年の人だけでなく、年に一度家族全員で御礼報謝と開運祈願を修する「祈願詣」という習慣があります。

厄除開運祈願の意味

業を落とし、本来の状態に戻す

これまで溜めに溜めた「業」は、知らないうちに自分を傲慢にさせたり、精神的にイライラさせたり、慣れの心で注意がおろそかにさせます。その結果、病気や事故などの災難に出会ってしまうのです。

厄払いによってこの業をしっかり落とし、自分自身が持つ本来の清浄な状態に戻り、開運祈願によって向かう厄年も無事に過ごすことができるように願うものなのです。

護摩の炎には

その物体が持つ

本来の力を呼び

覚ます力がある

祥徳寺は護摩で厄除け

当山では毎年 2 月 3 日午後 7 時より「厄除開運節分祈願会」を厳修し、護摩を修し厄払い・開運祈願を勤めています。



厄除開運 節分祈願会 護摩の様子

護摩ってなんでしょう？

煩惱を焼き尽くす炎

護摩木と呼ばれる木片に願い事と願主を書き、仏様を観想した炎へくべることで願いを成就させる密教の秘法。これを「護摩」といいます。護摩の炎は不動明王の火焰であり、この炎によって祈願したもののあらゆる煩惱は焼き尽くされ、迷いが消え去り、本来持つ力を発揮できるようになるとされています。

「縁」は尊いもの

縁がないと参れない

祈願寺や信心寺（修行のために参拝する寺）は、菩提寺とは違い、「縁」がないと参ることができません。生涯にわたり、何の落目、門目なく人生を歩むという方はほとんどいません。いざという時、頼れる仏様との出会いは本当に尊いものです。

どうか皆様も MY 仏様をもっていただき、幸多き日暮らしを心より祈念致しております。